

2025年3月期 通期決算概要

- 2025年3月期は欧州経済減速の影響が建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業において継続するも、第4四半期（1-3月期）では欧州の経済回復の兆しもあり、売上高および営業利益は通期予想通りに着地
- 2026年3月期は欧州市場が下期以降緩やかに改善し、通期純利益への黒字転換を予想。米国関税政策による不確定要素もあり先行き不透明だが、動向を注視しつつ価格転換等により対応。建築用ガラス事業におけるドイツのフロート窯2基の生産停止、自動車用ガラス事業における欧州の生産体制見直し等によるコスト削減効果も見込む。グループ全体でより一層のコスト削減等、あらゆる施策を実施し、黒字回復に注力
- 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の初年度は、財務目標の進捗については欧州経済の減速が影響するも、中期経営計画と4つの「D」に対するコミットメントは市場低迷の影響を受けず不変。戦略の推進を継続
- 欧州においては、現下の厳しい事業環境に対応して生産体制見直し等のコスト削減の一方、中長期的な付加価値製品に対する需要の拡大に対応した各種施策も推進中

1. 2025年3月期 通期決算

- 第4四半期（1-3月期）の売上高は2,104億円（前年同期比△94億円、△4.3%）、営業利益は57億円（同+19億円、+51.4%）で、減収ながら増益
- 通期の売上高は8,404億円（前年度+79億円、+0.9%）、営業利益は165億円（同△194億円、△54.0%）で、Q3時（2月7日）公表の通期予想通りに着地。売上高は為替影響もあり自動車用および高機能ガラス事業で増収だが、営業利益は欧州の経済減速の影響を受け、建築用と自動車用ガラス事業で減益
- 個別開示項目は2024年10月10日公表のドイツ・グラートベックでのフロート窯の生産停止や2025年1月24日公表のドイツ・ヴァッテン工場の生産体制見直しに伴う一時費用を含め、純額で52億円の費用（前年度は1億円の収益）
- 金融費用（純額）は253億円と、欧米の金利低下の効果もあり、前年度の282億円から29億円改善。持分法による投資利益は55億円（前年度比+4億円）と前年度から改善。前年度はロシアのジョイント・ベンチャー売却に伴う一過性利益として計48億円を計上
- これにより当期損失は135億円（前年度比△244億円、前年度は109億円の当期利益）、純損失*は138億円（同△245億円、106億円の純利益）と、予想（170億円の損失）を上回って着地
- 自己資本比率は、純損失の計上により10.5%（前期末比△1.9pt）。フリー・キャッシュ・フローは、営業減益の一方で運転資本改善により100億円のプラス（前年度比△53億円）。有利子負債は主に期末現預金残高の増加との見合いにより5,248億円（前年度比+184億円）

<損益計算書および財務指標>

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期			2025年3月期 通期業績予想
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	
売上高	2,198	2,104	△ 94	8,325	8,404	79	8,500
営業利益	38	57	19	359	165	△ 194	160
営業利益率	1.7%	2.7%	+1.0pt	4.3%	2.0%	△ 2.3pt	1.9%
個別開示項目 (純額)	△ 8	△ 27	△ 19	1	△ 52	△ 53	△ 70
個別開示項目後営業利益	29	30	0	360	112	△ 247	90
金融費用 (純額)	△ 78	△ 71	7	△ 282	△ 253	29	△ 250
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	37	-	△ 37	-
持分法による投資損益	14	18	4	51	55	4	50
持分法投資に関する その他の利益	△ 0	-	0	10	-	△ 10	-
税引前利益 (△損失)	△ 35	△ 23	12	176	△ 85	△ 261	△ 110
当期利益 (△損失)	△ 32	△ 42	△ 10	109	△ 135	△ 244	△ 160
純利益 (△損失)*	△ 29	△ 38	△ 9	106	△ 138	△ 245	△ 170
EBITDA	168	177	9	818	658	△ 160	
フリー・キャッシュ・フロー	276	564	288	153	100	△ 53	

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

(億円)	2024年 3月末	2025年 3月末	増減
総資産	10,076	10,329	253
親会社の所有者に帰属する持分	1,243	1,081	△ 162
自己資本比率	12.3%	10.5%	△ 1.9pt
有利子負債	5,065	5,248	184

<各事業の概況>

建築用ガラス事業	欧州を中心に販売数量減少および販売価格低下により、前年度比で減収減益。ドイツのフロート窯 2 基の生産停止により固定費削減 (2024 年 6 月に 1 基、2025 年 1 月に 1 基)。太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調継続。米国の既存フロートラインの転換工事が完了し、生産を開始
自動車用ガラス事業	円安による影響もあり増収。通期の営業利益は人件費等その他コストの上昇および資産稼働率低下の影響を受け減益。1-3 月期はアジアおよび米州での販売数量と販売価格の改善により増益。ドイツ・ヴィッテン工場を含め生産体制の見直しを継続
高機能ガラス事業	多くの事業で堅調な需要が継続し増収。営業利益はその他コスト増加の影響を受けたが前年度からやや増加

(億円)	2024年3月期		2025年3月期		差異	
	1-3月期	通期	1-3月期	通期	1-3月期	通期
売上高						
建築用ガラス事業	973	3,718	889	3,630	△ 84	△ 88
自動車用ガラス事業	1,117	4,176	1,105	4,294	△ 12	119
高機能ガラス事業	103	399	104	466	1	66
その他	6	33	6	13	0	△ 19
売上高合計	2,198	8,325	2,104	8,404	△ 94	79
営業利益						
建築用ガラス事業	29	291	49	136	20	△ 155
自動車用ガラス事業	20	113	51	77	30	△ 37
高機能ガラス事業	15	71	19	76	4	4
その他	△ 26	△ 117	△ 62	△ 123	△ 36	△ 6
営業利益合計	38	359	57	165	19	△ 194

2. 2026年3月期 業績予想

- 米国関税政策による不確定要素はあるものの、欧州市場は下期以降緩やかに改善し通期純利益への黒字転換を予想
- 主要通貨は2025年3月期実績より円高を見込む
- エネルギーや原材料価格は上昇し、インフレ傾向を反映した人件費等その他コスト増加も継続
- 欧州での生産体制見直しを中心にグループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を推進

<業績予想>

(億円)	2025年3月期 実績		2026年3月期 予想		増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	4,224	8,404	4,200	8,500	△ 24	96
営業利益	102	165	100	310	△ 2	145
個別開示項目 (純額)	△ 0	△ 52	10	10	10	62
個別開示項目後営業利益	102	112	110	320	8	208
金融費用 (純額)	△ 126	△ 253	△ 130	△ 270	△ 4	△ 17
持分法による投資利益	25	55	30	60	5	5
税引前利益 (△損失)	2	△ 85	10	110	8	195
当期利益 (△損失)	△ 34	△ 135	△ 20	40	14	175
純利益 (△損失)*	△ 39	△ 138	△ 30	20	9	158

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

3. 米国関税政策の影響

米国関税政策の影響



ガラス製品は基本的には地産地消。
先行きが不透明だが、引き続き政策動向を注視しつつ価格転嫁等により対応

1. 売上高に対する影響

(1) 建築用

- 米国内では経済先行き不透明に伴う投資控え、需要減少の可能性
- 太陽電池パネル用ガラスは米国内向けは基本的には米国で生産、一方で競合の中国製品には高い税率の適用

(2) 自動車用

- 新車用
米国向けの自動車生産に対する需要減少の影響を受ける可能性
- 補修用
メキシコで生産する一部製品の価格上昇に伴う需要減少の可能性、一方で競合の中国製品には高い税率の適用

2. コストに対する影響

- 原燃材料コストが増加する可能性はあるが、価格転嫁により軽減

4. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の進捗状況

「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況



欧州経済減速の影響を大きく受ける。

引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2025年3月期 (通期) 実績
収益性 (P/L)	営業利益	640億円		165億円：主に欧州経済減速の影響を受ける。 欧州の建築用と自動車用ガラス事業以外は計画通り
	営業利益率 (ROS)	7%	10%以上	2.0%：第3四半期から0.3pt改善
▼				
キャッシュ創出 (C/F)	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		100億円：営業減益だが運転資本の改善により フリー・キャッシュ・フローはプラス
▼				
財務基盤の安定化 (B/S)	有利子負債	4,420億円		5,284億円：前期末から184億円増加
	自己資本比率	15%		10.5%：前期末から1.9pt低下

「2030 Vision : Shift the Phase」4つの「D」の進捗状況



中期経営計画と4つの「D」に対するコミットメントは市場の低迷の影響を受けず不変。

リソースを柔軟に確保しつつ戦略の推進を継続

1. Business Development

- ・ 米国オハイオ州ロスフォードの既存フロートラインの転換工事が完了、太陽電池パネル用ガラスの生産を開始
- ・ 欧州の建築用ガラス事業（ダウンストリーム、板ガラス加工過程）において、脱コモディティ製品強化を推進
- ・ ペロブスカイト太陽電池市場の開拓に向け、グループ横断の運営委員会を設置



2. Decarbonization

- ・ 太陽電池パネル用ガラスの生産能力増強は、二酸化炭素排出量削減に貢献しつつ業績改善に寄与

3. Digital Transformation

- ・ ERPシステムの統合に向けてパイロット版の提供を一部地域で開始

4. Diverse Talent

- ・ 女性管理職比率は2024年3月期の16.8%から2025年3月期に18.8%に上昇
- ・ 人事情報システム構築について、現状分析および要件定義の策定が完了

5. 欧州の事業環境と施策

欧州の事業環境と施策

欧州では、**建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業ともに付加価値製品の需要は中長期的に拡大。コスト削減、付加価値製品の強化による脱コモディティ製品化により対応**

1. 欧州の事業環境

- ・ 直近ではインフレ拡大、高金利の継続に伴う経済減速の影響を大きく受けて需要が減少
- ・ 金利の低下が始まっており、それに伴う段階的な経済回復を期待
- ・ 1-3月期は資産稼働率の改善等もあり、ガラス価格が上昇する等回復の兆し
- ・ 建築用ガラス事業では、エネルギー効率改善のためのリノベーション需要は中長期的に拡大
- ・ 自動車用ガラス事業では、自動車生産台数の緩やかな改善に伴い需要が回復

2. 施策～「2030 Vision : Shift the Phase」の「Business Development」に基づく脱コモディティ製品化

- ・ 建築用ガラス事業では、アップストリーム（板ガラス生産工程）の削減およびダウンストリーム（板ガラス加工工程）の脱コモディティ製品強化
- ・ 自動車用ガラス事業では、生産体制の見直し等によるフットプリントのさらなる適正化やオペレーションコストの削減による徹底的な収益性改善、および付加価値製品の拡大と製品価値を反映した販売価格の改善



欧州の事業環境と施策

3. 主な施策

(1) 建築用ガラス事業でのアップストリーム削減および自動車用ガラス事業でのコスト削減

事業	国	概要	公表日	実施時期	コスト削減効果		
					年間	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (予想)
建築用 ガラス	英国	フロート板ガラスと型板ガラスの溶融窯を共用化	2023年4月21日	2025年3月	約4億円	-	約3億円
	ドイツ	パイアハマー工場のフロート窯1基の生産停止	2024年3月19日	2024年6月	約20億円	約15億円	約20億円
	ドイツ	パイアハマー工場の定期修繕および生産再開延期	-	2025年4月～6月	約8億円	-	約5億円
	ドイツ	グラーベック工場のフロート窯1基の生産停止	2024年10月10日	2025年1月	約30億円	約5億円	約30億円
自動車用 ガラス	ドイツ	ヴィッテン工場の生産体制見直し	2025年1月24日	2025年6月～8月	約11億円	-	約5億円
	イタリア	サン・サルヴォ工場の生産体制見直し	-	2025年6月～2026年3月	約10億円	-	約5億円



欧州の事業環境と施策

(2) 建築用ガラス事業でのダウンストリームの脱コモディティ製品化

概要	国	実施時期	進捗状況
複層ガラス、トリプル複層ガラス	主にポーランド	実施中	年率5%増加を目指して計画通りの進捗中
先進的なコーティング技術を活用した製品低放射（Low-E）ガラス等	英国、ポーランド	実施中	年率4%増加を目指して計画通りの進捗中
大型ラミネート合わせガラス	ドイツ	2025年12月	計画通り進捗中

(3) 自動車用ガラス事業での付加価値製品の拡大および販売価格の改善

	概要
新車用	ヘッド・アップ・ディスプレイ付きフロントガラス等先進運転支援システム（ADAS）に対応したガラス、赤外線反射ガラスや調光機能付き大型ルーフガラス等車内の快適性向上や電気自動車に対応したガラス等、付加価値製品の拡大とその製品価値を反映した販売価格の改善
補修用	新車用ガラスにおいて付加価値製品の採用が拡大することで、補修用においてもその代替に伴い付加価値製品が増加および製品価値を反映した販売価格の改善。コモディティ製品については中国の関連会社を活用し付加価値製品に注力。新車用と補修用を組織的に統合することにより、一貫して需要に対応

